令和８年９月定例会・一般質問表

発言順	質問者		質問事項
	議席	氏名	
1	１０	小沼　富夫	1　災害時井戸水協力の家について ⑴ 制度の現状について ⑵ 登録井戸の現状把握について ⑶ 水質の確認について ⑷ 停電時の利用について ⑸ 市民への周知について 2　文化会館改修事業について ⑴ 公募不調をどのように総括するのか ⑵ 予算に合わせて工事を削るのではなく、必要な工事を明確にすべきではないか ⑶ 中途半端な段階改修にならないか ⑷ そもそも現在の文化会館を改修することが最善なのか ⑸ 休館中の市民への対応について ⑹ 新たな財源確保策について ⑺ 市長の責任について
2	１７	舘　大樹	1　個人宅の防犯カメラ設置に対する助成について ⑴ 現状認識について ⑵ 公共空間の安全への寄与について ⑶ 助成制度の必要性について
3	１８	長嶋　一樹	1　新たな財源の確保に向けた取組について ⑴ 現状について ⑵ 今後の取組について 2　第３次伊勢原市環境基本計画について ⑴ 目標の達成状況について ⑵ 課題について
4	１５	森尾　武史	1　伊勢原市の税収入を高めるエリア整備と企業誘致について ⑴ 伊勢原大山ＩＣ付近の開発状況について ⑵ 企業立地の可能性を高める優遇措置の活用について

5	１４	安藤　玄一	１　ＡＩ・ＤＸを活用した行政事務改革について ⑴ ミツイワ株式会社との「行政事務のＤＸ推進に関する連携協定」について ２　防災・災害対応におけるＡＩ活用について ⑴ 熊本地震におけるＡＩ活用とデジタル支援について ⑵ 本市の災害対応業務におけるＡＩ活用について
6	１３	米谷　政久	１　環境施策について ⑴ カーボンニュートラルに向けたまちづくりについて ⑵ ゼロカーボンシティ宣言後の状況について ２　消防本部・消防署本署庁舎整備事業について ⑴ 本署、狭あい敷地での状況について ⑵ 本署再建設の現状について
7	9	大山　学	１　文化会館の改修事業と効率的な行政運営の考え方について ⑴ 将来を見据えた効率的な行政運営と公共施設の再編について
8	4	荻野　貴文	１　いせはらの未来に向けた市民活動の情報発信支援について ⑴ 現状について ⑵ 今後について ２　いせはらの未来に向けた大山の未来像について ⑴ 日本遺産認定から１０年間の取組について ⑵ これからの１０年、５０年、１００年を見据えた大山の未来について

9	１１	前田　秀資	1　伊勢原の強味「地域文化」を活かしたまちづくりについて ⑴ 歴史・文化・芸術の発信拠点の整備の考え方について ア　都市経営の骨格的事業の遅滞…再開発、道の駅、インター周辺整備(進出企業の未決定)こうした整備計画の中に「発信拠点」の整備を位置づける考え方はないのか イ　停滞事業に対し、市の総合力を挙げて推進しようとする仕組みはどうなっているか ⑵ 三ノ宮の恵泉女学園園芸短期大学跡地について ア　地元の危惧や要望への対応について イ　開発等に関する現状の法的規制について ウ　独自の環境条例やまちづくり条例等に規制を盛り込む考えはないか
10	5	山田　昌紀	1　市長の政治姿勢について ⑴ 取組姿勢と成果について ⑵ 今後の課題について
11	8	越水　崇史	1　人口減少社会における人を呼び込む政策について ⑴ 人口減少社会における市の姿勢について ⑵ 将来的に維持・確保が必要な人口規模について ⑶ 子育て世代等を呼び込むための取組に関するＫＰＩ及びその検証について 2　文化会館改修と公共施設の将来像について
12	6	川添　康大	1　公共施設使用料の見直しと「受益者負担」の考え方について ⑴ 「利用する人と利用しない人の公平」とは何かについて ⑵ ２，０００万円の増収と市民活動への影響をどう比較したのかについて ⑶ 物価高騰の中で、いま市民負担を増やすべきなのかについて 2　災害関連死を防ぐ避難所環境の整備について ⑴ 「ＴＫＢ４８」を市の目標にするのかについて 3　加齢性難聴者への補聴器購入費助成制度の創設について

13	3	岸　圭介	1　小学校給食における牛乳の廃棄について 2　不登校の児童・生徒が増えている 3　ひきこもり支援に関する調査について 4　香害（化学物質過敏症）の方への合理的配慮 5　伊勢原市新型インフルエンザ等対策行動計画について 6　こども誰でも通園制度の利用状況 7　産後ケア事業の利用状況
14	１９	八島　満雄	1　伊勢原市空家等の適切な管理に関する条例について ⑴ 条例施行後の市の取組について 2　空き家抑制策の推進について ⑴ 空き家抑制策及び専門機関との連携について 3　空き家の利活用について ⑴ 空き家利活用とインスペクション(既存住宅状況調査)の制度の概要について
15	１６	橋田　夏枝	1　デジタル社会の中で子どもたちの育ちを守るには ⑴ デジタル教育について ⑵ 子どもたちのスマホ・ＳＮＳ等の利用について ⑶ ゼロ歳から考える子どもとデジタル機器の付き合い方について